

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年12月26日更新

事務事業名		福祉会館管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☒ 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部
	施策	18	社会福祉の推進			所属課	福祉課
	基本事業	53	地域福祉の推進			所属班	社会福祉班
予算科目		会計一般	款3	項1	目2	事業連番10431	法令根拠福祉会館設置条例
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度18年度) ☐ 期間限定複数年度
						成果優先度評価結果: ① コスト削減優先度評価結果: ⑥	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	①ウィーブル内の合志市福祉会館の管理運営業務を指定管理者(合志市社会福祉協議会)から直営に戻した。 ②福祉会館利用料の集計及び納入・指定管理者である社会福祉協議会は、高齢者世帯、母子世帯、傷病世帯等の増加や地域福祉への関心の高まりから、社会福祉協議会によせられる期待は大きく、その役割も重要なものとなっている。 ・福祉会館の充実を図るため、平成21年度より直営とし地域福祉支援事業を社会福祉協議会に委託し実施する。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	福祉会館で相談事業などの事業を展開。
【主な予算費目】	消耗品費・使用料及び賃借料
【意見や要望】	・合志市社会福祉協議会の活動拠点としては、ふれあい館、みどり館と福祉会館があり、3施設とも合志市社会福祉協議会が指定管理者となっている。特に旧合志地区においてはみどり館と福祉会館の2施設があり、サービス拠点の一本化を検討されている。 また、施設使用料をウィーブルと一元化した。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO) 平成21年度より福祉会館で相談事業を開始し、平成23年度はその推移を見守っている。		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 相談機能の充実を図る
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 委託料に関する予算執行事務に要する時間	H	備品修繕による需用費の増
イ 福祉会館使用料	円	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民		→ ア 指定管理者への申込み団体
		イ 館の利用者数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
創意工夫に富んだ公の施設の管理運営		→ ア 苦情の件数
		イ 館の修理金額
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
直営に戻し、利用者の利便性を考慮して21年度に改修を行ったことにより苦情の減少が見込まれる。また、開館して15年を迎えるので、老朽化による改修が発生してくることが見込まれる。		全体計画
		～年度
		0

(2) 各指標・総事業費 の推移				単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
① 活動指標	ア	H		30	20	20	20	20	20	20	20	20
	イ	円		0	0	0	0	0	0	0	0	0
② 対象指標	ア	団体		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	イ	人		16,215	15,778	16,000	14,940	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000
③ 成果指標	ア	件		0	3	5	3	5	5	5	5	5
	イ	円		50,715	0	100,000	0	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
投資 事業 入費 量	財源 内訳	国庫支出金	千円									
		都道府県支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他	千円									
		繰入金	千円									
	(A) 事業費計	一般財源	千円		301	301	318	310	403	603	603	603
		(A) 事業費計	千円		301	301	318	310	403	603	603	603
		(A)のうち指定経費	千円		0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円		0	0	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人		2	3	1	0	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間		78	128	50	0	50	50	50	50
		(B) 人件費計	千円		321	516	201	0	201	201	201	0
トータルコスト(A)+(B)			千円		622	817	519	310	604	804	804	603

事務事業名	福祉会館管理事業	所属部	健康福祉部	所属課	福祉課
-------	----------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 会館の風呂場を改修し、会議室として活用できるようにし、利用者の利便を図った。
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 平成21年9月より直営にしたことで達成の見込みあり。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある⇒【理由】 ☒ 向上余地がない⇒【理由】 民間が持つノウハウを活用することにより、サービスの向上が図られる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 福祉会館は総合センターヴィーブル内にあるため、総合センター全体としての活用・運用を検討し、平成21年9月より直営とした。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 福祉会館の指定管理の場合、消耗品等の経費のみを委託料に当てているので削減の余地は無い。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 契約等既に交わしてあり時間の削減はできない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 公平・公正である⇒【理由】 随意契約により契約を交わしており公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である⇒【理由】 利用者の利便性を考慮し、カラオケ設備を設置し、風呂を事務所として使用できるよう改修したことにより適正な役割分担ができる。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

直営にしたことにより、リフォームを実施し、利用者の利便性を向上させた。地域福祉の拠点化を進めることができた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												